
安全データシート (SDS)

1、製品及び会社情報

製品名 : リファインポリマー ベースコート
整理番号 : HJK11002
会社名 : 株式会社本荘興産
住所 : 岡山県倉敷市児島塩生 2764
電話番号 : 086-475-0950 / F A X 番号 086-475-0952
改訂 : 2016年4月1日
製品説明 : 自動車塗装面の保護および艶出し (業務用)

2、危険有害性の要約

【GHS分類】

[健康に対する有害性]

急性毒性 (経口)	区分5
急性毒性 (経皮)	区分5
皮膚腐食性/刺激性	区分2
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2B
呼吸器または皮膚感作性 (皮膚)	区分外
生殖細胞変異原性	区分2
発がん性	区分外
生殖毒性	区分外
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	区分2 (呼吸器)
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	区分2 (肝臓、呼吸器系、精巣)
水生環境急性有害性	区分2
水生環境慢性有害性	区分2

(注) 危険有害性の分類で、「分類対象外」及び「分類できない」は項目を省いた。

【GHSラベル要素】

[GHS絵表示]



[注意喚起語]

警告

[危険有害性情報]

飲み込むと有害のおそれ
皮膚に接触すると有害のおそれ
皮膚刺激
眼刺激
遺伝性疾患のおそれの疑い

臓器の障害のおそれ(呼吸器)

長期または反復暴露による臓器の障害のおそれ(肝臓、呼吸器系、精巣)

水生生物に毒性あり

長期的影響により水生生物に毒性あり

[注意書]

【安全対策】

全ての安全注意、説明書きを読み、理解してから使用する。

製品を使用するときに飲食・喫煙をしない。

用途以外では使用しない。

保護メガネ、保護手袋等の適切な保護具を着用する。

粉塵/ヒューム/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入しないこと。

屋外または換気の良い場所で取り扱う。

取り扱い後は、手、顔等をよく洗うこと。

環境への放出を避けること。

【応急処置】

吸入した場合

直ちに新鮮な空気の風通しの良い場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。なんらかの異常を感じた場合は直ちに医師の処置を受ける。

皮膚に付着した場合

直ちに多量の水と石鹼で洗うこと。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。なんらかの異常を感じた場合は直ちに医師の処置を受ける。

目に入った場合

直ちに多量の流水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。なんらかの異常を感じた場合は直ちに医師の処置を受ける。

飲み込んだ場合

直ちに医師の診断を受ける。

気分が悪いときは医師の診断/手当てを受ける。

暴露または暴露の懸念がある場合、医師の診断/手当てをうけること。

【保管】

子供の手の届かない所に施錠して保管する。

容器を密閉し、直射日光を避け、涼しく換気のよいところに保管する。

【廃棄】

関連法規ならびに地方自治体の基準に従って処理する。都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくはその処理を行なっている地方公共団体に委託して処理すること。

3、組成、成分情報

- 単一製品・混合物の区別 : 混合物

化学名	含有率	P R T R 法	労働安全衛生法	C A S No.
トリエタノールアミン	0.2 (%)	---	通知物質No.381	102-71-6
ミネラルスピリット	12.5 (%)	---	通知物質No.551	8052-41-3
モルホリン	1.0 (%)	110-91-8	通知物質No.604	110-91-8

シリコン 乳化剤 研磨剤

4、応急措置

- 吸入した場合
直ちに新鮮な空気の風通しの良い場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。なんらかの異常を感じた場合は直ちに医師の処置を受ける。
- 皮膚に付着した場合
直ちに多量の水と石鹼で洗うこと。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。なんらかの異常を感じた場合は直ちに医師の処置を受ける。
- 目に入った場合
直ちに多量の流水で数分間注意深く洗眼する。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。なんらかの異常を感じた場合は直ちに医師の処置を受ける
- 飲み込んだ場合
直ちに医師の診断を受ける。
気分が悪いときは医師の診断/手当てを受ける。
暴露または暴露の懸念がある場合、医師の診断/手当てをうけること。
いずれの場合も、医師への受診時には製品または SDS を持参する。

5、火災時の措置

- 消火剤
粉末消火薬剤、二酸化炭素、泡消火剤、噴霧水
- 使ってはならない消火剤
棒状注水
- 火災時の特定危害有害性
火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。
- 特定の消火方法
火元への燃焼源を絶ち、適切な消火剤を使用して消火する。消火作業は、可能な限り風上から行なう。関係者以外は安全な場所に退避させる。周囲の設備等に散水して冷却する。消火の為の放水等により、製品もしくは化学物質が河川や下水に流出しないように適切な処置を行なう。
- 消火を行う者の保護
消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6、漏出時の措置

- 人体に対する注意事項
作業には必ず保護具（手袋、マスク、メガネ等）を着用する。

多量の場合は人を安全な場所に退避させる。

必要に応じた換気を確保する。

漏出物の上をむやみに歩かない。

- 環境に対する注意事項
漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。環境中に放出してはならない。
- 除去方法
少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。
- 二次災害の防止策
すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

火花を発生しない安全な道具を使用する。

7、取扱い及び保管上の注意

- 技術的対策
取り扱い場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設置する。
- 注意事項
火気厳禁。眼および皮膚への接触を避ける。
- 安全取り扱い注意事項
作業場の換気を十分に行なう。
保護メガネ、保護手袋等の適切な保護具を着用する。
取り扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。
- 適切な保管条件
火気厳禁。通気の良い場所で容器を密閉して保管する。
凍結、直射日光を避け、涼しく換気の良いところに保管する。
- 安全な包装容器材料
製品使用容器に準ずる。

8、暴露防止及び保護措置

- 設備対策
蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。
取り扱い場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設置する。
 - 管理濃度
未設定
 - 許容濃度
日本産業衛生学会 未設定
ACGIH 未設定
 - 保護具
呼吸器用の保護具：通常の作業の場合は特に必要なし
手の保護具：不浸透性保護手袋
眼の保護具：ゴーグル型または全面保護メガネ
皮膚及び身体の保護具：長袖作業衣
 - 取扱後はよく手を洗うこと
-

9、物理的及び化学的性質

- 物理的形狀
 - 形状 : 黄褐色乳化性液体
 - 臭い : 原料臭
 - pH : 8.5-9.5
- 物理的状態が変化する特定の温度/温度範囲
 - 沸点 : データなし
 - 流動点 : データなし
 - 引火点 : データなし
 - 発火点 : データなし
- 爆発特性
 - 爆発限界 : データなし
- 溶媒に対する溶解性
 - 水 : 混和する
- その他
 - 密度 (比重) : 0.957
 - 粘度 : 6,800-8,500cps
 - 不揮発分 : データーなし

10、安定性及び反応性

- 安定性 : 通常の使用条件下では安定である。
- 避けるべき条件 : 情報なし。
- 避けるべき材料 : 情報なし。
- 危険有害な分解生成物 : 炭素酸化物
- その他 : 特に知見なし。

11、有害性情報

急性毒性 (経口) (モルホリンとしての情報)	(ラット)LD50	1450mg/kg
急性毒性 (経皮) (モルホリンとしての情報)	(ウサギ)LD50	503.5mg/kg
皮膚腐食性/刺激性	モルホリン	1%
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分	2 B
呼吸器または皮膚感作性 (皮膚)	区分	外
生殖細胞変異原性	モルホリン	1% 区分 2
発がん性	区分	外
生殖毒性	区分	外
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	モルホリン	1% 区分 2 (呼吸器)
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	ミネラルスピリット	12.5% 区分 2 (肝臓、呼吸器系、 精巣)
水生環境急性有害性	ミネラルスピリット	12.5% モルホリン 1% 区分 2
水生環境慢性有害性	ミネラルスピリット	12.5% モルホリン 1% 区分 2

12、環境影響情報

水生環境急性有害性 :

ミネラルスピリットとしての情報 : 甲殻類 (オオミジンコ) の 48 時間 LC50
